

# 原告側が証人尋問

## 水俣病裁判 口頭弁論

# “爆薬説”中心に追及

## 西田氏 かなり苦しい答弁

水俣病裁判の第三回口頭弁論は、八日午前十時から、熊本地裁第三審事審議堂で開かれ、三月四日に引き続き、原告の原告側弁護団が、元新日本水俣工場長の西田栄一氏に現場デブリ廃棄場に対する質問を行った。

三月五日の出席拒否のおと受一ツシで証人召喚の口実を尋ね、西田氏があいまいな証言をした時以、められた。



法廷に入る西田証人

この日原告側は、二十九日十月七日会社側が機水俣説に対する反論として打ち出した、いわゆる「爆薬説を中心とした」爆薬説は、底の割れるデブリな反論だった。これは補遺を求め、西田をさらすためのセスキアだったのではないかと追及した。これに対し西田証人は「爆薬説は反論というよりは、ひとつの疑問を提示した程度のもので、この説を裏付ける調査は中途でやめたが、セスキアだったわけではない」とかなり苦しい答弁をした。

原告側は、二十九日当時の目利紙の切り抜きと、熊本県が同様に発表した「不知火海の騒音と水俣調査中間報告」、黒歯生部が出した「熊本県水俣病原因を多岐

若は処理についていまいを語らない」とウソの報告をして同説を支持した」と、爆薬説のデブリを挙げた。これに対し、西田証人は爆薬説の根拠の噂や、会社当初発表した海底調査などの裏付け調査を途中でやめたことば述べた。しかし「爆薬説はセスキアで、ごまかしたのではないかと。会社はデブリを機水俣病の原因が有機水銀であることを知ったから、こんなデブリな反論をしたのではない」という質問には、これまでも同様「そうではない」と強く否定した。午後四時十分閉廷。九日も引き続き、原告側の証人尋問が行われる。

「会社は黒歯生部の責任者であった元第二海軍航空隊(じよ)の役補給中場の中野部員少尉に話を聞き、同席にあった黒歯品はすべて二十一年一月茶室に引き渡され、三浦港から船で深海搬送されたことを知りながら、爆薬説の主眼者である日本化学工業協会の大島常務理事に対しては、責任